

平成30年度第1回
若葉区民対話会

「加曾利貝塚を活用したまちづくりの実施について」

日 時：平成31年2月14日（木）

午前11時半～12時

場 所：加曾利貝塚博物館 多目的室

千葉市の取り組みについて

・加曽利貝塚グランドデザインの概要

昨日の朝刊で新聞各紙に掲載されましたので、ご覧になった方もいらっしゃると思いますが、加曽利貝塚のグランドデザインというものを2月12日火曜日、市長の定例記者会見にて発表させていただきました。

一昨年、加曽利貝塚は、貝塚として初めて特別史跡に指定されました。物でいうと、重要文化財の中から特に大事なものが国宝に指定されるのですが、不動産、遺跡でいうと史跡という重要な遺跡の中から特別に守らなきゃいけない史跡が特別史跡に指定されます。割合でいうと、史跡の中の3.4%が特別史跡に指定されています。

国宝というのは、重要文化財の中の約8%が指定されておりますので、基本的に国宝並みといつも言っているんですが、国宝より特別史跡のほうが希少価値があるんじゃないかなと私は考えております。

特別史跡に指定されている有名なものをいうと、例えば吉野ヶ里遺跡とか、キトラ古墳とか、大阪城跡、名古屋城跡などの城跡が多いです。加曽利貝塚は、貝塚としては本当に全国で初めて認められたところになります。この加曽利貝塚と、今この部屋からもご覧になれるように周辺の自然、この辺における一体的な整備、活用の将来像というものをグランドデザインとして取りまとめたところでございます。

・加曽利貝塚グランドデザインの構成

構成としましては、資料1枚目と2枚目が第1部「グランドデザイン整備構想」でございませう。資料3枚目が第2部「特別史跡加曽利貝塚史跡整備基本計画」となります。

まず、第1部「グランドデザイン整備構想」は、博物館の移転を踏まえまして、史跡内外の魅力向上を目的としました中長期的な整備計画でございませう。実は今の博物館は、大事な遺跡の上に建物が建ってしまっている。これは正直に言いますとあまり適切な状態ではないということ、移設をしたいと考えております。

また、第2部「特別史跡加曽利貝塚史跡整備基本計画」でございませうが、こちらは博物館移転までの当面の間、既存施設の活用を前提としております。例えば、団体の方が見学できる、休憩できる便益施設、また歩きやすい園路など、来訪者の利便性向上を目的とした、おおむね2020年ぐらいまでの短期的な整備を目的としております。

・加曽利貝塚グランドデザインの内容

まず、第1部「グランドデザイン整備構想」でございませうが、こちらは中長期的に考えておりました、2026年を目標としております。この加曽利貝塚、特別史跡に指定されたことをゴー

ルではなく、新たに始まるスタートとして位置づけまして、これから加曽利貝塚にかかわる人々が同じ方向に向かって進めるような羅針盤として、将来のあるべき姿を描いたものでございます。

左下、第2章でございますが、まずここでは加曽利貝塚の特性と対象エリアを設定しております。対象エリアとしましては、今いらっしゃる加曽利貝塚、この15ヘクタールと、外にある坂月川という川。そして、川の向こう側に縄文の森特別緑地保全地区が広がっております。大体16ヘクタールぐらいあるんですが、合わせて32ヘクタール、これを今回の整備対象エリアとしております。

右側のページ、第3章になるんですが、ここの整備・活用の基本方針としまして、加曽利貝塚の目指すべき将来像を定義してあります。

まず、特別史跡としての役割はどうか、また緑地、公園としての役割はどうすべきか、また博物館としての役割はどうすべきかというものを整理しております。

まず、特別史跡としては、我が国文化の象徴であるこの遺跡として価値を守り育てて、新たな価値をさらに生み出していく。また、調査研究成果に基づいて、縄文時代の景観と人々の暮らし、これを確実に体感できるようにする。これを目標としております。また、緑地、公園としましても、史跡と一体となりまして、この貴重な縄文時代の景観を演出していく。そして、博物館としては当たり前なんですが、幅広い調査研究を推進しまして、縄文文化と貝塚の性格を究明していく。実はこの加曽利貝塚は広大な敷地なんですが、これまでの発掘調査で約8%程度しか発掘がされていません。ですので、まだまだ未解明な部分がたくさんあります。約5,000年前から3,000年前までの2,000年間の貴重な情報が今もこの下に眠っておりますので、この辺を全部掘ってしまうと破壊になってしまいますので、場所を選びながら、学術的な調査を目的として引き続き研究をしていくこととなります。また、この縄文文化と貝塚に関する資料をきちんと収集し、公開、活用していく、こういった博物館を目指していきたいと考えております。

コンセプトとしましては、本物を感じる体験型学習観光施設を目指しております。学術だけでは人が来ないですし、観光だけでは多大なる市税を投入するほどの施設になりませんので、本物をきちんと感じられる体験型の施設を目指してまいります。

また、整備終了後は、博物館入館者数は目標15万人としておりまして、現在は年間7万人ぐらいになっておるんですが、これを15万人に伸ばしていきたいと考えております。

第4章、この将来像の実現に向けて、これまでさまざまな課題を整理してまいりました。課題整理に向けていろいろな方々にお話を伺っております。

まず、①番、博物館の入館者のアンケート、そして②番としましてワークショップ、これは近隣の自治会様にご協力いただきまして、あるいは日々この博物館を中心に活動されている団体の方にもご協力いただきまして、ワークショップを何回か開催しております。また、③番としまして類似施設の先行事例、そして④番、専門家のヒアリング、そして⑤番、これはご存じない方いらっしゃるかもしれませんが、市民シンクタンクモデルとしまして、千葉市まちづくり未来研究所というのを立ち上げまして、こちらで市政のさまざまな課題を検討していただいております。この政策提言報告書の中から加曽利に関するご意見を頂戴しておりますので、これらを参考に課題を解決していきます。

主な意見としましては、一般の方からしてみると利便性の向上、また広い土地をいかに活用していくかというご意見が多いです。また、専門家になればなるほどきちんとした調査研究に基づいて、本物をちゃんと見せる。これに力を置くようにというご意見が多い感じです。

資料2枚目、第5章、ランドデザインに基づく整備方針でございます。

先ほどご紹介しましたが、真ん中に坂月川が通っております。坂月川を挟んで左側、これが加曽利貝塚という史跡になります。右側が今緑地になっている部分、左側の8の字になっている部分ありますね。これがまさに貝が詰まっている貝層部分、こういったものを遺構保存ゾーンと位置づけております。また、その他公開、活用するゾーン、また自然を保護するゾーン、また縄文の植生を守り続けるゾーン、そして坂月川の右上になりますが、今いる博物館から見ると北東側になりますが、新博物館ゾーン、そしてその下、縄文の森ゾーンや水辺公園ゾーンという7つのエリアに区分しまして、それぞれに適したさまざまな整備を進めてまいります。

例えば、この遺構保存ゾーンでございますが、下の内訳をごらんください。貝層保護のための盛り土、また植栽管理、貝がむき出しになって見えている部分もございますし、貝層の上に樹木が生い茂っていて、木の根が貝層を破壊している部分もございます。こういったものを順次整備していきます。

そして、公開活用ゾーンでは、体験学習スペースを確保したり、また施設、園路の整備、竪穴住居を1棟、新規に復元整備する予定になります。

また、左下、新博物館ゾーンでは、加曽利貝塚の縄文文化がきちんと学べる博物館を整備すること。また、最新の研究成果が発信できる環境、そのほかミュージアムショップや飲食施設、また加曽利貝塚が俯瞰できるような展望施設を整備してまいります。

縄文の森ゾーンでは、新博物館から史跡を直接つなぐつり橋をかけ、また、樹木の間を通り抜けられる、散策できるツリーロードを整備し、またちょっと一部開けた土地がありますので、これは民間事業者の力でパークマネジメントを行っていただくゾーンといった位置づけになり

ます。

第2部では、短期的な整備になります。一体的な史跡整備の基本方針を示した上で、その中でも優先的に早期に着手すべき整備事業を短期的な整備として抽出しております。

左下の第3章をごらんください。

実施内容ですが、まず遺構の整備では、貝層上の樹木の伐採、また貝層保護のための盛り土、復元集落エリアの再整備などを行ってまいります。また、修景では、樹木の調査を行い、来訪者の安全・安心を脅かす樹木の計画的な伐採を行ってまいります。

施設整備につきましては、第4章に、①番から⑥番まで整理をしています。

①番は便益施設。今この加曽利貝塚では、建物や休憩場所が少ないので、一旦雨が降ってしまうと、子供たちがお弁当を食べる場所もままならない状況になります。こういった、団体のお客様を収容できるような施設を建築してまいります。また、南貝塚につきましては、建物等ございませんので、いざというときの雷雨等にも対応できるような、あずまやのようなもの、また休憩所としてベンチを新設いたします。

②番ですが、既存施設のバリアフリー等の改修を行ってまいります。

③番でございます。今現在、加曽利貝塚の中は案内看板等、不足しております。実際に歩いていただいても、なかなか遺跡の解説、説明を行っている案内板というのがありませんので、こういったサインを再整備してまいります。

また、⑤番でございますが、復元集落エリアでの体験学習の活用の幅を広げるために上下水道を整備する。また、放送設備なども整備してまいりたいと考えております。

そして、第6章では、全体のスケジュールをご説明します。

まず、第2部の短期的な整備につきましては、2020年までのおおむね2年間、これは史跡指定地内の利便性向上に努めてまいります。

次に、中長期的な整備としましては、2026年度までのおおむね8年程度、目標としましては、新博物館の建設と、新博物館と史跡指定地を結ぶルート、各エリアの整備を行ってまいります。

なぜおおむね8年間という中途半端な期間なのかという質問を受けるのですが、実は特別史跡を目指す中で、この加曽利貝塚を今後どうしていくかという、保存活用計画というものを定めました。この保存活用計画の中で、文化庁から求められていたのは、おおむね10年間程度の今後の活用方針、おとしを起点として10年間の活用方針を定めたものですから、今2年経過しまして残り8年ということで、ちょっと中途半端なんですけど、おおむね8年程度の目標となっております。

・加曽利貝塚グランドデザイン イメージパースの説明

最後に、資料4枚目のカラーのイラストをご覧ください。

左上に全体の大きい図面があります。全体図の一番左下、これが新博物館建設予定地です。小倉浄化センターという施設の跡地になっております。市有地になります。ここに展望施設を加えまして、上空から全体を俯瞰したイメージ図になります。新博物館から右側、坂月川を越えるつり橋です。これは、つり橋ではなく、管理用道路的な使い方もできる少し構造のしっかりした橋にすることも検討しております。なるべく高低差のない、バリアフリー化に対応した橋で史跡に向かいます。

史跡では、現在、樹木が生い茂っていて、貝層の高まりが余りよくわからない状況になっています。ですので、この8の字の貝層を何となく見てとれるような整備を行っていきます。

また、現在の公園の入口から入っていただいて正面、現博物館のある場所には、便益施設を建築します。また、この便益施設の左上、ここには現在もある復元集落がございます。

そして、その下、何かカヤぶき屋根のような建物が見え隠れしていると思うんですが、これは今建っている大須賀家住宅ではありません。今居る博物館の下に、昔の大型建物跡が残っております。この大型建物を何らかの形でシンボルとして復元したい。その復元したイメージ図が記載してあります。

そして、坂月川を渡ってこの対岸に戻っていただくと、更地の中に、イメージとしては大須賀家住宅を移設して、ここを民間事業者によるパークマネジメント、何らかのアウトドア関連施設であるとか、バーベキュー場であるとか、そういったみんなが楽しめるものをつくってきたいと考えております。そして、木の中は森の中を散策できるようなツリーロード、そしてイメージとしましては左下、黄色いバスに赤い文字ではとバスが来るような施設にしたいなど考えております。

個別なイメージなんですけど、まず左下から見ていただくと、加曽利貝塚の中としまして、復元住居周辺での縄文体験、またその右側、貝層の大きさが体感できるような活用、図ではイルミネーションをイメージして記載しております。そして、その右側、発掘現場の公開、またVRでのガイドダンス、右をご覧くださいますと、右上のほう、雨の日でも活動できるような体験工房、そしてその下、レストラン等の飲食施設、その下、民間事業者によるパークマネジメントや観光バスツアーなどの誘致、こういったものを全体のイメージとして位置づけております。

こういった今後博物館の新設、また史跡の整備などを行いまして、調査研究機能の強化、これはもちろんでございますが、それによって加曽利貝塚や縄文時代の価値やブランド力の向上とあわせて観光施策等も連携して、この加曽利貝塚という土地をグリーンエリアの新たな

魅力として何か創出できないかというのをグランドデザインとして定めて、今後若葉区とも連携しながら進めてまいりたいと考えております。

・加曽利貝塚グッズについて

現在、行政主導ではなくて、民間事業者様による商品開発や販売のご協力によりまして、いろいろな加曽利貝塚グッズが発売されております。ピンバッジ、キーホルダー、ボールペン、シャーペン。私も今日つけているんですが、かそり一ぬのネクタイ、そして、フリースやジャンパー。こういったものの販売を、房の駅さんにはいつもご協力いただきましてありがとうございます。このように、民間事業者様にご協力いただきまして、加曽利貝塚のPRをさせていただいておりますので、この場をお借りしまして報告させていただきます。

他自治体の事例・地域活性化支援事業補助金について

・他自治体の事例

本日は皆様をお願いしたいことが2点ございます。

今説明のあったグランドデザインに対する意見をいただくのが1つ。もう一つが、せっかくこの貴重な史跡があっても、なかなか縄文を感じさせる町並みになっていないとか、そういった商品がまだまだないという現実があります。

それで、皆さんに意見交換に入る前に、先進事例のご説明をさせていただきたいと思っております。

1つめに、長野県茅野市にも縄文遺跡があり、こちら市を挙げて縄文のプロジェクトを行っております。例えば、ドングリの粉を使ったクッキーを作って、商品の裏面に史跡の説明が入っている商品があります。残念ながら、若葉区にはまだこのようなものがなかなかないというのが現状です。

2つめ、「食べられる道」プロジェクトですけれども、野菜の苗を植えたプランターを民家の軒先に置いて、それで町並みをつくっております。

3つめ、「網走ちゃんぽん」ですけれども、網走ではちゃんぽんでまちづくりを進めている取り組みがあるのですが、ちゃんぽんだけではなかなか価値が創出できないということで、網走刑務所で井をつくって、あわせてコーディネートをしてまちおこしをしております。

4つめ、「くどパンのどぐパン」ですけれども、こちらは青森県民のソウルフードを使って、青森を代表する土偶をモデルにしたパンを商品化し、まちおこしをしております。

・地域活性化支援事業補助金

何かこのような取り組みを始めるのに、行政から支援はないのかということで、お配りした資料をご覧くださいなのですが、区役所では「地域活性化支援事業」というものを行ってお

ります。まちづくり活性化をさせるための補助金になります。

対象団体は、町内自治会、ボランティア団体、市民活動団体、NPOなど、学生さんでもオーケーです。

事業の種類ですが、1つめの「地域づくり活動支援」では、地域課題や地域活性化に資する地域活動に対して、1年目は20万、2年目と3年目は10万円の補助金がございます。2つめの「区テーマ解決支援」では、毎年区でテーマを設定しております。こちらに関しては、1年目30万、2年目と3年目は15万の補助金が申請できます。3つめは「地域拠点支援」として、地域活動の拠点整備として、家賃補助や改修費の補助を行っております。

これはあくまでスタートアップのための補助金でして、3年が限度となって、それ以降はご自分たちで財源を確保していただきたいという補助金です。

意見交換

○青木若葉区長 それでは、皆様にご意見いただく前に自己紹介をお願いします。

○Aさん 株式会社やますのAと申します。弊社は千葉の観光土産品の卸しと、あと千葉のお土産品、房の駅という直営店舗をやっています、こういう形で地域に貢献していければと思っています。よろしくお願いします。

○Bさん Bと申します。会社では広告や広報を担当しております。よろしくお願いします。

○Cさん Cと申します。会社名が書いてありますけど、出席とは関係なくて、地元育ちということで今日は参加しています。加曽利貝塚に入って左側の建物に、上れないように柵がしてありましたけど、あれは僕が子供のころよく屋根に上って怒られていたので、ああいう柵がつけられたのかなと。そういう地元愛で今日は参加させていただきました。よろしくお願いいたします。

○Dさん 東京情報大学総合情報学部3年のDと申します。大学の学生自治会で代表を務めております。本日はよろしくお願いいたします。

○Eさん 同じく東京情報大学総合情報学部3年のEと申します。Dさんと同様に自治会で渉外の局長をしております。よろしくお願いします。

○Fさん 千葉大学大学院工学研究科博士課程のFと申します。よろしくお願いいたします。

○Gさん Fと研究室が同じくGと申します。よろしくお願いします。

○Hさん 千葉刑務所作業部門、Hと申します。刑務所では刑務作業の指導等を行っております。よろしくお願いします。

○Iさん 千葉刑務所のIと申します。Hと同じく刑務作業を担当しています。懲役刑という

言葉は聞いたことがあると思うんですが、これは、刑務所の中で物を作ったり、刑務所の中を掃除したりすることを、刑務作業と言っていますけれども、刑務所の中で何らかの作業につかされることを懲役刑と言っております。その中で、加曾利E式土器をモチーフにしたビアカップを平成30年度から作っております、その関係もあって今回お呼びいただきました。また、新たな製品開発も今、Hのほうで着手しております。よろしく願いをいたします。

○Lさん ちなみに土器ビアカップは1個いくらなんですか。

○滝田特別史跡推進担当課長 600円です。

○青木若葉区長 手づくりなので、大量生産は難しいんですよ。土器ビアカップを見たときに、都賀駅から小倉台駅の飲食店に、これを使ってくれとセールスに行こうかなと思っていたんですが。執務室に飾っている状態です。

○Jさん 桜木加曾利地区商工振興会のJと申します。

商工会を中心に、過去何回も何回も加曾利貝塚、何とかしようよと打ち合わせしているうちに、息切れしてとまっているというのが現状であります。

○Kさん 小倉台中央自治会の会長をやっておりますKと申します。よろしく願いいたします。

○Lさん 小倉台商店会の顧問の、Lといいます。

○Mさん 桜林高等学校から来ましたMです。よろしく願いします。

○Nさん 植草学園大学から参りました発達教育学部3年のNと申します。今年度、桜木小学校で加曾利貝塚を舞台にしたオペラを実施したんですが、その時に大学の先生のお手伝いとして参加させていただきました。本日はよろしく願いします。

○Oさん 同じく植草学園大学から来ました発達教育学部3年のOです。Nさんと一緒に、桜木小学校で加曾利貝塚のオペラに携わらせてもらっていました。よろしく願いします。

○Pさん 同じく植草学園大学から来ました発達教育学部4年のPと申します。私もNさんとOさんと同じで、桜木小学校で行われました縄文オペラに携わらせていただきました。よろしく願いします。

○青木若葉区長 ありがとうございます。

それでは、このグランドデザインに対するご意見ですとか、町並みとか商品開発について、何かご意見があれば挙手をお願いできればと思いますが、いかがでしょうか。

○Cさん エントランスは、向こう側の坂月川の対岸につくるということですか。

○滝田特別史跡推進担当課長 基本的には公園の入り口はこのままで、博物館の入り口はあちらになると思います。こちらの駐車場も潰しませんので、両方が入り口と考えております。

○Cさん 新しい入口は、通学路を途中挟む感じになってくるし、なかなか、あの道も結構渋滞するので、交通整理が必要になってくるのかなと思ったものですから。

私は、子供のころからここで遊んで育ってきたんですが、夜になるとすごく真っ暗になるのが今では貴重だなというのがあって。こういった施設をつくるときに、不必要に明るくしないほうがいいのかというのがある。よく夜空の観察も、ハレー彗星なんかは、記録をつけに来たりしたんですけど、そういう独特の夜の暗さというのは、縄文の夜とか、そういったものを一つの何か売りにできないかというのがあります。

それと、資料中に弓矢の作製とありましたが、例えば縄文弓矢の大会とか、そういったイベントもできるのかなと思いました。どんなものなのか見ていないので、わかりませんが。

○Lさん 縄文時代に弓矢はあったんですか。

○滝田特別史跡推進担当課長 弓矢はありました。大昔、マンモスみたいな大きな動物のときは、男の人がみんなでまとめて狩りをしていたんですけど、それがだんだんなくなって、小動物に移り変わってきたときに、弓矢で追いかけるという感じになってきたんですね。弓矢自体で本当にイノシシが死ぬかと、そういうわけではなかったらしいんですけど、弓矢で追い込んで落とし穴に落として捕まえていたというふうに聞いています。

○Gさん これまで、ここでの活動としては、ナイトミュージアムで竹灯籠を設置したり、加曽利貝塚をテーマとした、若葉区オリジナルの婚姻届受理証明書デザインを作成しました。

今回のグランドデザインは、学芸員の方がどれぐらい関わって、構想を練られたんでしょうか。これからになりますか。

○滝田特別史跡推進担当課長 実はこのグランドデザインは整備構想でございますので、学芸というよりかは、事務方を中心に、公園部局や観光部局とも連携して作成をいたしました。この度移転候補地や史跡整備の全体的な方向性が決まりましたので、今後は例えば新博物館に必要な施設の規模であるとか、それぞれの諸室の構成であるとか運営体制、こういった中身について議論していかなくちゃいけないので、その辺については調査研究体制に関わる場所ですので、学芸員を中心に動いていくことになると思います。

○Gさん 現在は、家族単位でここに来ている方が多いのかなと思っていて。地元の方に愛されている場所が、注目され、規模が大きくなるにつれて、地元の人と外から来る人の交わり方がちょっと難しくなるのかなと思って、学芸員の方の話も聞きたいなど。

○滝田特別史跡推進担当課長 今後、予算をとって、建物を建てるのは簡単なんです。それをどう生かしていくか、運営していくかというのが学芸員の腕の見せどころですので、またこのような機会があれば、学芸員も含めて、加曽利貝塚の中身についても意見交換をさせていただ

きたいと思います。

○青木若葉区長 ソフト的なことでちょっと補足させていただきます。

今、婚姻届受理証明書という話が出たと思うんですが、これは婚姻届を出したとき、希望すれば、手数料1,400円で「婚姻届を受理しました」という証明書を発行できます。今までは、学校でもらうような賞状用紙だけだったんですが、加曽利貝塚をイメージした新デザインを、千葉大学にお願いをして2種類作っていただいて、合計3種類の証明書交付を実施しております。

それと、植草学園大学の方から縄文オペラの話がありましたが、植草学園大学にオペラの先生がいらっしゃいまして、ぜひ縄文をテーマにしたオペラをやりたいということで、桜木小学校の5年生を対象に、1年かけて準備し、先日、保護者と関係者の方に対して発表会をおこなったということがあります。

そういう意味で、ソフト的なものというのは考えればいろいろ出てくると思いますので、そういうアイデアもぜひ出していただければと思います。

○Aさん 弊社は海外でもいろいろな拠点で商売をさせてもらっているんですけども、日本は、公園の活用というのがちょっと遅れているという印象です。もちろん残さなきゃいけないものもあるんですが、海外では、カフェがあったりして、そこで何か体験できたり、展示を行ったりしています。スターバックスさんではご当地マグカップを販売していて、例えばニューヨークではイエローキャブのイラスト入りマグカップを販売しているので、それを収集したい人たちが世界中からわざわざそこに買いに行くそうです。

施設を作ると、殺風景で昔の学校みたいなものができてしまうということが多いので、大きい会社と組んだりしながら、「かそりーぬ」や加曽利貝塚の象徴的なものを、デザイン性よく表現できると、若い人も含めて、地元の人たち、県外とか、国外からも来るような環境がつけられると思うので、うまくやれるといいかなと思います。

○滝田特別史跡推進担当課長 ありがとうございます。

遺跡の上だと、規制でできないことが多いんです。例えば、自動販売機1台設置するだけでも、現状変更申請を国に出してという、そういう世界です。今後は、史跡外の整備も含めてやっていきますので、ある意味自由自在に、本当にデザイン性に富んだおしゃれな建物、そしてスターバックスさんかどうかわからないですけど、いろいろな特色のある飲食店等もどんどん誘致したいなと考えています。

例えば、ただのレストランではつまらないので、例えば貝料理であるとかイノシシなどの縄文グルメ、こういったものを必ずメニューに取り込んでいって、ここならではの飲食、お土産

というようなものを作り上げていきたいなと考えております。ご意見参考にさせていただきたいと思います。

○青木若葉区長 スターバックスのマグカップやタンブラーは、そこに行かないと買えないという。ハードロックカフェのTシャツなんかと同じですよ。ですから、オリジナルのあるもの、ブランドを向上させるようなものが生まれるといいなと思います。

○滝田特別史跡推進担当課長 ここでしか買えないタンブラーとかですよ。

○Aさん うちが地元が市原なんですけれども、実は市原市には日本一の瓦職人がいて、市原にあるスターバックスさんでは、お店の前に瓦を砕いた庭があるんです。誰もその理由を知らないですけども、何かそういったストーリーを持ってお店づくりをして、縄文土器とか、生かせたらおもしろいかなと思います。

○Gさん 説明の中で、いくつか気になった点がありました。まず、看板やサインを充実させていくという点ですが、昨今インスタ映えだとかで写真を撮るのが皆さんの中でとてもブームになっていますが、観光地に行って写真を撮ろうとしたときに、人や看板がノイズだと考えるんですね。物を撮りたいのに、そこに看板が写り込むことによって、写真のきれいさが失われてくるなんていう視点を持っている方もいらっしゃるかと思います。なので、看板やサインを整備していく際に、デザインのどのように見えるかといったところは検討していかなければならない点なのではないかなと思いました。

○滝田特別史跡推進担当課長 縄文の景観に戻していくのが我々の使命ですので、まさにおっしゃるとおりだと思います。

まず、このランドデザインに基づく取り組みの第1弾としましては、基本的な全体のコンセプト、ブランディング、統一的なデザインとかコンセプトをまず決めていかないとイケないかなと思います。

例えば、こっちの手すりとおっちの手すりですら全然デザイン性が違うとか、それだとうまくないので、全体を一つのテーマパークのような形で、統一コンセプトで縄文の景観、要はノイズにならないようなデザインで、かつスタイリッシュな建物もあわせ持った、そういった努力をしていきたいと考えています。

○Gさん あと、体験の部分に関してなんですけれども、私たちの研究室で今取り組んでいるのが、歴史的造形物の3Dスキャン及び製品提案です。

先ほど市原市のお話が出たんですけど、今、市原市埋蔵文化財調査センターさんと協力して、縄文土器の3Dスキャンというのを行っています。これからはそれも製品展開をしていくかと思うんですが、製品展開のほかにも、縄文土器は直接さわるといことが難しくなっていくと

思うので、3Dデータを作成し、その3Dデータを活用して展示物をつくる。また、さわれる体験ができるのではないかなと考えています。そういった点もぜひ取り入れていただければなと存じます。

○滝田特別史跡推進担当課長 ぜひ参考にさせていただきたいと思います。

現実的には、考古学の考え方からすると、ただ同じものが完成すればいいというものではないので、でき上がったものが本物の土器と同じ形であることにはあまり意味がなくて、縄文人たちがどういう技法で、どういうやり方でそれをつくり上げたか、こういう縄文文化を研究することに意味があるんですね。ですので、今までは3Dプリンター等で完成品をつくることに主眼を置いていなかったというのは実際にあると思います。でも、今までのやり方では大量生産もできないですし、さわっていただくことが難しいので、今後はそういった取り組みも必要だなとは思っています。

例えば、釣り針つくるのも、ただ鹿の角を使えばいいというものじゃないんです。私がこの前、鹿の角で釣り針を1本、ダイソーで買った金属のやすりでつくったら、博物館の学芸員から石器でつくってくれないと意味ないと怒られまして、それが考古学なんだと本当に反省しているところなんです。そういったいろいろな考え方をうまく融合させて、いろいろな方に楽しんでいただけるような体験学習施設にしたいと思います。ご意見ありがとうございます。

○青木若葉区長 今、デザインのお話が出たんですけれども、小倉台駅と桜木駅からこの貝塚へ向かって、縄文らしい町並みというんですか、先ほど、プランターを軒先に置いて町並みを作る取り組みを紹介しましたが、そのようなことを今後させていただきたいなと思っています。特に、今日は地元の自治会の方ですとか、商店街の方がいらっしゃいますので、こういったことにぜひご協力をいただきたいです。

○Lさん 縄文時代の家が建っても不便だしな、クーラーをつけておくわけにいかないし。

○Gさん 婚姻届受理証明書のデザインを作成するときにこちらで調査をさせていただいたんですが、その際にちょっと気になったのが、伝えたい側と伝えられる側のギャップについてですね。こちらに集まっている方というのは、縄文時代とか加曽利貝塚に興味を持って活動している人たちだと思うんですけれども、実際に伝えられる人たちというのは、どういう人たちなのか考えると、いきなり「縄文土器が～」とか、「縄文時代が～」と言われると引いてしまうと思うんですね。いきなり行きたくなるわけでもないと思います。その部分で、PRに力を入れるときに、もうちょっとソフトに、少しずつ興味を持ってもらうような方向性にしていくのはどうかなと考えたんですね。それで、婚姻届受理証明書のデザインを作成する際には、「加曽利貝塚だ」ということを強調しないデザインに実はしているんですね。「これは何だろ

う？」と手にとってもらえるぐらいの、手にとってもらったときに、「これが加曾利貝塚のデザインなんだな」と思ってもらえる方向性にはしているんですけど、そのあたりはどうなんでしょう。

○青木若葉区長 私も、当初出来上がったデザインを見たときに、直接的な貝塚の表現、土器や土偶があまりなかったので、加曾利貝塚をイメージできなかったというのが正直なところです。

ただ、デザインのコンセプトを読んで、なるほどなと思いました。デザインのコンセプトを読めばわかるんですけど、目だけではなかなか伝えられないのかなというのが私の個人的な感想です。

○滝田特別史跡推進担当課長 考古学に興味のない方にいきなり来てもらうのは当然無理ですし、一部の考古学ファンだけが来る施設でいいかというそれは違うと思うんですね。文化財ではありますが、もう少し観光に力を入れていかなきゃいけないのかなとは思っています。

実は、おととしまでは学芸員が特別史跡推進担当課長だったんです。私は観光部門から来ていまして、2年前までは花火大会とか、千葉湊大漁まつりの開催、またレッドブル・エアレースの誘致、国際会議の誘致などを担当していました。これまで学芸員しかやっていなかったポストに観光から人を持ってくるということは、恐らく選挙で選ばれた市長の意向としても、観光化にも力を入れていく考えがあるのだと思います。その意向も踏まえまして、そういった方向にも少し目を向けていきたいと思っています。

○Lさん 市長も粋な人事をしたものですね。ここに住んでいるのは、60年前の宅地開発で来た、東京のサラリーマンなんだよね。今はその2代目ぐらい。

○Jさん 仕事柄、物販と集客を真剣にやっております。先ほど担当課長さんがお話しになった、貝料理云々という話。小倉にすばらしいイチゴ園がありますよね。桜木の方はご存じだと思うんですけども、あそこはタイから来た観光客がたくさんいらっしゃいます。タイの王族の方が来られたことがあるといううわさを聞いております。イチゴ園の後に、加曾利貝塚きていただいて、タイ料理を食べていただくのもおもしろいかなと思いました。

○青木若葉区長 実は若葉区内に製麺所があるんです。以前、今お話しに出たイチゴ園で、タイの方に持って帰ってもらえるような土産物を作れないかみたいなことを、その製麺所に相談しに行ったことはあります。

これからのまちづくりは、行政だけでやっていると、やはり人、物、金のある、持っている大学や企業と手を結んで、連携をしてとにかくまちづくりを進めなければならないと考えております。ですから、そういった視点も含めて何かアイデアがあれば、ぜひご提案をお

願いたいと思います。

○Lさん ここでは何万ヘクタールも雑木がいっぱい生えていますけど、何も収穫できないでしょう。木の葉っぱだけで。これを全部、栗の木に植えかえれば、相当栗がとれますよ。恐らく15年くらいでどんどんとれるようになる。柿の木だと登ってとらなきゃいけないけど、栗の木は放っておけば実が落ちこちてきて収穫できるんですよ。それを土産で売るとかね。

○滝田特別史跡推進担当課長 実は、縄文人の主食は栗とかクルミ、ドングリなんです。加曾利貝塚のこの土地にはドングリは余りなかったらしいですけど、おっしゃるとおり栗はまさに縄文人の主食ですので、縄文時代の植生に戻していくときに考慮したいと思います。

○Lさん 若松にある畑に栗の木を3本植えたら実がたくさん採れたんです。若松はここから2kmぐらしか離れていないから、地面は余り変わらないと思うんだよ。

○滝田特別史跡推進担当課長 なかなか今の既存の木を切ってまで栗を植えられるかどうか、ちょっといろいろ課題はありますが、観点としてはいいかなと思いますね。

あとは加曾利貝塚ならではの土産であるとか、飲食、メニューであるとか、そういったものを当然販売、開発していただける方がいらっしゃるというですし、学生さんのお力でそういった、お祭りのときに試作品をよく出していただいたりとか、何かデザインをしていただいたりとか、あるいはそれを盛り上げるような取り組みというのを一緒になって考えていただけるといいですよ。それが区を盛り上げることにもなりますし。

○Lさん Kさん、うちの自治会の納涼大会と今度のさくら祭りで縄文っぽい店を出してもらうのはどう。今年はちょっと無理だろうけど、来年あたりから。

○Kさん 私どもの自治会のエリアというのは、モノレールの小倉台駅を中心に、あの周辺に広がっている戸建ての住宅街です。約1,600世帯の規模の自治会になっています。加曾利貝塚の特別史跡の指定ということについては、住民の間でも熱にギャップがありまして、非常に熱心に、「何かやっぺいこう」「自治会としてどうやるんだ」と、かなりハードにおっしゃってくる方もいれば、「何それ」というような方もいらっしゃいます。熱心な方は、昨日の朝刊の、6,000万ぐらい予算がつかましたという記事を見て、「つり橋ができるんじゃないか」とか、「博物館ができるんじゃないか」とかおっしゃる。6,000万でできるわけないでしょう、調査費ですよ、と申し上げても、「そんなはずはない」となってきちゃうので、何かもうちょっと具体的な内容をうまくPRされるといいかなと。それこそ、学芸員が課長さんをやられていたのを、今度は観光畑の方が、ということなので、ちょっとその辺、まだまだだけれども、やっぺい一歩、二歩が踏み出せたんだというようなものを、うまい表現でもって、市政だよりも何でも、ちょっと入れていただければ助かるんですが。

○滝田特別史跡推進担当課長　どんどんPRしていきたいと思います。ご意見ありがとうございます。

○青木若葉区長　近隣の自治会さんとか、団体を対象にしたPRはあえて今までやっていませんので、これについてはちょっと検討させていただきたいと思います。

○Kさん　ぜひお願いしたいんですが、実は団地で間もなく小倉台公園のさくら祭りというものをやります。ぜひ「かそり一ぬ」をお貸しいただければと思っております。納涼大会もかなりの規模でやっておりますので、そういったような地域のイベントで、ちょこちょこ顔を出していただくといいのかなと。「かそり一ぬ」はかなり人気がありますので、ぜひその辺もお願いしたいと思います。

○滝田特別史跡推進担当課長　ありがとうございます。日程調整を後ほど。

○Lさん　納涼大会は2日間やるんですけど、1万人以上、かなりの人が来るんですよ。

○滝田特別史跡推進担当課長　何月何日と決まっているんですか。

○Kさん　おおむね7月の最終の金、土、日のうち2日間ぐらいのイメージでしょうか。さくら祭りが3月30日と31日の土日で、今のところ予定を組んでおります。

○青木若葉区長　あと私から提案なんですけれども、例えば刑務所さんでは、土器ビアカップのようなものが作れても、これに付加価値をなかなかつけられないじゃないですか。先ほど網走ちゃんぽんの話があったんですけども、組み合わせで地元の商店街で売るとか、そういったことは可能なんですか。

○Iさん　はい、うちは作って販売できればいいです。ただ先ほど申し上げた、生産数の問題があります。3名で作っていたのを、ようやく1名増やして4名にしたんですけども、ビアカップだけを作っているわけではなくて、他にも陶器の製品を作っているんですよ。何十種類もある製品のうちの一つにすぎないのです。うちとしては、矯正展という、刑務所の広報や物販を行う催しを11月にやっていて、一応1万人ぐらい来るイベントなんですよ。そのときに、ビアカップだけを売るというわけにもいきません。また、複数の飲食店に十分に供給できるほど作り上げることができないので、例えば一つの飲食店に30個ぐらい買っていただくことはできますので、そこでうまくマッチングができればいいかなと思っています。

それと、結構壮大なグランドデザインという計画を立てていらっしゃいますが、今ほどお祭りのほうでも広報できればというお話もあったので、うちの千葉矯正展もぜひ活用していただきたいなと思っています。イメージパースに絵がありましたが、ほとバスにも来てもらえるような施設をこれから作るということを考えると、特別史跡になった加曽利貝塚というものを、全国的に発信していかなくちやいけないんだろうなと思います。その辺、将来的にはこう

いう情報発信を考えているとか、あるんですか。

○滝田特別史跡推進担当課長 もともと特別史跡というのが、地元の遺跡というレベルじゃなく、日本を代表する遺跡でございます。誰でも知っているような、吉野ヶ里遺跡、キトラ古墳、名古屋城跡、大阪城跡、そういったものと対等な、同レベルの遺跡ですので、本当にPRの仕方次第でもっともっとお客さん来るだろうと考えています。

コンサル業者から伺った話によると、関東近辺でこれだけの遺跡というのはほかにないものですから、きっとそのプロモーション次第では、何十万人と来る可能性はあると。その中で一番大事なのは、新博物館をどこまでPRできるか、そして、その中身を、本物をわかりやすく解説できるかどうか。そのためにも継続しなければならないのは、発掘調査をきちんと行って、遺跡の価値をもっともっと明らかにすることで、これが一番大事なことだと思っています。

いろいろな展示や体験、これで縄文を満喫できたとしても、その基礎となるのはあくまでも調査研究ですので、発掘調査そのものを展示の中心的なコンテンツとして、もっともっと盛り上げていくというのが第1段階だと考えています。あとは、お金かかりますけど、博物館、展望台やつり橋等で、観光施設としても、相当な市税を投入するだけの効果を見ていくというふうに考えています。

○Iさん 了解しました。刑務所というのは、全国に各地、各県に1つぐらいあるんです。こういった製品をもう少しでも多く作る体制を整えて、各県で矯正展というイベントで物を売っているのです、こういったビアカップなどを販売できれば、全国で話題になろうかと思えます。小さい活動ではあるんですが、きっとご協力できるようにしていきたいと考えます。

○滝田特別史跡推進担当課長 そういった意味で、新博物館の中に必ずミュージアムショップをつくりますので、ぜひいろいろなグッズをお願いしたいと思います。

○Iさん 印刷工場も持っているのです、メモ帳を作ったり、キーホルダーを作ったり、そういった窯業製品以外のものも若干は作ることができるので、ちょっとずつラインナップを広げていきたいなと思っていますので、またよろしくお願いします。

○Lさん 品物がどんどん売れても工員が4人しかいないんですね。会社だと、売り上げが出れば新しく人を雇うでしょう。そちらの業界では、例えば、他の刑務所に腕のいい陶器を作れる工員が5人いたら、こっちに振りかえるというのはできないんですか。

○Iさん 大体、刑期の長さで収容される刑務所というのが決まるので、ちょっとなかなかそれは難しいですね。千葉刑務所で収容されている人たちというのは、結構刑期が長いんです。民間企業みたいに、ここでいいのがいたらここに持ってきて作業をさせようというのはちょっとできなくて。我々は転勤するんですが、受刑者はなかなか転勤させられないので。

○青木若葉区長 先日、植草学園大学で開催された高校生のスピーチ大会に行ったときに、地元の生徒さんが行ったアンケート調査で、若葉区に愛着を持っていない高校生がなんと8割ぐらいだったと聞いて、非常にショックを受けたんですけども、そういった意味で、地元の大学に通われている学生さんたち、どうしたらこの加曽利貝塚に興味を持ってもらえるか、何かアイデアがあれば、ぜひお教えいただきたいんですけども。

○Lさん 愛着を持っているのが2割しかないと、ほかの地域はそれより高いんですか。全国平均が10%だよというんだったら、うちは高いといえるんですけども。

○青木若葉区長 若葉区だけの調査で、ほかと比較はしていないので、何とも言えないんですが、ほかから通ってきていると、なかなか地元で愛着を持ってもらえないというのが現状のようです。

○Dさん 先ほどプロモーションというお話があったので、一つ意見させていただきたいと思うんですけども、万人受けするものではないかもしれないんですけども、最近流行しているものとして、バーチャルユーチューバーというものがあります。例えば、サンリオのキャラクターのハローキティが実際にしゃべっているかのような映像、動画を投稿していたりするんですけども、それを「かそりーぬ」でやれたら、すごく親しみやすくプロモーションができるんじゃないかなというふうに考えました。例えば、グランドデザインを発表したじゃないですか。これを、完成しましたと見せるだけでも素晴らしいと思うんですけども、この作成の過程を「かそりーぬ」と一緒に映像をとおして歩めていけたら、かなり親しみやすいものになるんじゃないかなと考えております。

○Cさん この「かそりーぬ」なんですけど、性別とか、年齢とかあるんですか。

○滝田特別史跡推進担当課長 ないですね。

○Cさん 仮に「かそりーぬ」がお父さんだとしたら、奥さんのかそりーぬと子供のかそりーぬも用意して、何か集落みたいところで生活してる設定で、プロモーションしていくのもあるのかなと。

○滝田特別史跡推進担当課長 おっしゃるとおりです。「かそりーぬ」がしゃべったり、もう少し具体的な活動できれば、もうちょっとプロモーションできるという部分確かにあると思うので。その辺はこのままではいけないのかなと。しゃべることももちろんそうですし、人を案内するだけじゃなくて、ブラックかそりーぬでもいいですし、お子さんでもいいですし、家族をふやしていくとか、次の展開を考える時期にそろそろ来ているかなと。

○Cさん ちょっと何かそういうファミリー的なイメージもあるとすごく映えるんじゃないかなと。

○Lさん かそりーぬファミリー、長男、次男、三男とか作って。長男はできが悪くて不良で、とか、次男は、運動神経鈍くてとか。

○滝田特別史跡推進担当課長 そこは何かちょっと考えていきたいなと思います。

○Lさん どこかの家庭に行って、ちょっと取材したら、そんな題材がいっぱい転がっていると思うよ。昔「はじめ人間ギャートルズ」という漫画があったでしょう。母さんがおっかない、父さんマンモスとってきなど。ああいう感じで。

○滝田特別史跡推進担当課長 それは、行政、我々公務員だけでそういうのを考えてもいいキャラクターにはならないので、特に学生さんで映像を研究している方とかのご協力を得ながら、検討していければ。今、既に観光分野と情報大さんは連携させていただいて、シティプロモーションビデオを作っていますので、ぜひ考えていきたいと思います。

○青木若葉区長 続いて、Eさん。今日加曽利貝塚へ来るの初めてだということで、どうしたら学生さんに足を運んでもらえますかね。

○Eさん 私は地元が香取市なんですね。香取市は、小野川沿いに江戸文化があつてということで、海外の方もいらっしゃいます。ひな祭りの時期はひな人形を飾ったりしています。香取市は、江戸の重要文化財、重要保存地区に指定されているので、そういったところで人を集めています。加曽利貝塚は、国内の人に向けてなのか、国外の人に向けてPRしていくのか、国外の人が来たときにどうするのかというのがあるんですか。

○滝田特別史跡推進担当課長 圧倒的に足りないのが多言語化、そしてバリアフリー化というところですね。そこは優先的に取り込んでいきたいと考えています。

あと、海外の方への発信で結構問題になるのは、縄文時代という概念ですね。縄文時代は日本だけなんです。メソポタミア文明の時代とか、そういう世界になっちゃうんですけど、日本の縄文時代というのをどうPRしていくかというのは、他の全国の縄文都市と相談をしていかなきゃいけないと思っています。縄文遺跡というのは海外に行っても、「JOMON site」という表現なんですよね。ですから、今後どう縄文時代というのを伝えていくか、これは一つのテーマだと思います。

○Eさん 2020年に向けて、2年で短期の計画があるじゃないですか。2020年というと、千葉市でオリンピック、幕張メッセとかで開催されるので、海外の人たちを誘致というか、誘い込むこともできるのか、それでこの海外にSNSが発達しているので、情報とか発信できるのかなというのは感じました。

○青木若葉区長 あと行政の広報はどうしてもちょっと足りないところがあるんですが、民間の企業さんで広報を担当されているBさん、行政は民間と比べて、どういったところが広報で

弱いというところを、単刀直入に言っていただけると。

○Bさん ちょっと未来が見えにくいところがあるかもしれません。先ほど、予算が6,000万とおっしゃっていましたが、この金額と、この計画の全体とでは差があると思うので。あとは、何から整備していくという順番とかがわからないなど。

○滝田特別史跡推進担当課長 博物館の規模などを決めないと総事業費が出ないので、この先の1年で総事業費を決めて、それを広報していく機会は必ずありますので、それとあわせて、全体計画の具体的なスケジュール、おおまかなスケジュールはグランドデザインに載せていますが、このときには具体的などころ、コンセプトをどんどんPRしていきたいとは思いますが、それをどう若葉区の魅力としてつなげていくかというのを皆様方と一緒にやっていきたいなという感じですかね。

○青木若葉区長 次に、縄文オペラをやられたNさんにお伺いしますが、もし仮に新しい博物館ができたときに、何かこういうことができるんじゃないかなというのはありますか。

○Nさん 教育実習で桜木小学校に行かせていただいたときに、子供と一緒に加曽利貝塚を見学しに行ったんですが、時間の都合上だと思うんですけど、博物館のほうはあまり見学できなかったもので、リニューアルした際は、見て学ぶことができるような新博物館の充実を図ってもらえたらなとは思っております。

○青木若葉区長 劇場みたいなのは必要だと思いますか。

○Nさん そうですね。喜ぶと思います。

○滝田特別史跡推進担当課長 多目的ホールみたいなものは必要なんではないかな。

○青木若葉区長 Oさん、どうでしょう。

○Oさん ちょっと話が戻ってしまうんですけど、さっきの高校生のお話で、東京オリンピックのキャラクターを決めるときに、小学生に投票してもらって決めたというのがありました。それを、別に若葉区に限定しなくてもいいと思うんですけど、若葉区の小学生から高校生にキャラクターを考えてもらって、「かそりーぬ」とはまた別にとか、「かそりーぬ」に似たものを考えてもらって、投票してもらって、新しいキャラクターを作るというのはすごくいいかなと思います。

もう一つ。昨年、大学の学祭の実行委員長をしていたんですけども、結構、小さい子供や、高校生はオープンキャンパスみたいな感じで、来てくれたりするんです。その時に、着ぐるみを着た大学生からスタンプをもらって、たまると景品がもらえるというスタンプラリーをやりました。お金の問題もあるのでわからないんですけど、例えば、「かそりーぬ」のシールを景品にあげるとかすると、すごく子供が喜ぶので、そういうところで学祭と連携出来るかなと。

○滝田特別史跡推進担当課長 実は昨日、「かそりーぬ」のシールを1万セット発注したところ。納品になりましたら相談させてください。

○青木若葉区長 Pさん、いかがですか。

○Pさん 地域から愛されるという面では、自分は桜木小学校に縄文オペラのお手伝いに何度か行かせていただいて、学校との連携が大切だなというのをすごく感じました。桜木小の児童は加曽利貝塚の近辺に住んでいるので、やはり何度か遊びに行ったことがある子供たちもいたんですけども、行ったことない子もちらほらいました。しかし、縄文オペラ制作に取り組み、縄文時代はどんな生活をしていただろうというのを考えていく中で、子供たちが自分から、加曽利貝塚に行ってみようと思ったり、実際行ってみたという子供たちが何人かいたので、学校と連携していくことで、行ってみようかなと自分から思ったりもできるのかなと思いました。

ちょっと話が変わるんですけども、自分は地元がこの千葉県でなくて静岡県なんです。他県からの認知というのを考えたときに、今「かそりーぬ」の食べ物の商品は出ているんですかね。キーホルダーとかは、ここに来た思い出に買っていこうとかあると思うんですけど、千葉駅とかで、クッキーやおまんじゅうなどの食べ物のお土産が売っていると、幅広い世代から手にとっていただけるのかなと思います。また、パッケージを見て広まっていくこともあるのかなと思いました。

○滝田特別史跡推進担当課長 そういうお土産品の開発は大事ですよ。

○青木若葉区長 栗を使っておみやげ品を作ることは必要なのかなと思います。それには、地元のお菓子屋さんやパン屋さんなどにご協力いただいたほうが効果的なのかな、まちおこしにはいいのかなと思っています。

○Lさん 協力させるには、利益が出るのが大事ですよ。

○滝田特別史跡推進担当課長 加曽利貝塚で実施するイベントに出店する業者様には、加曽利貝塚オリジナルメニューの開発を、ちょっとずつお願いをしておりますので、それをどんどん加速させていき、新メニューの開発に繋がればと思います。

○Lさん どこかが開発した商品に人気が出たら、みんなやろうか、となるんじゃないでしょうか。

○滝田特別史跡推進担当課長 イノシシ肉100%のソーセージを作ってもらって、加曽利貝塚のお祭りで去年から売り始めたら、今一番人気なんですね。そういうのをもっと市販化してほしいなと思っています。お土産になるような保存のきくものですよ。クッキーもいいかもしれないですけど、そういう肉っぽいものもいいかもしれないですね。

○青木若葉区長 小倉台商店会さんで、ぜひ地元のお菓子屋さん、金型か何かをまず最初に

つくっていただけると。地域活性化支援事業補助金もありますので。

○Kさん 小倉台商店会には、和菓子屋さんが1つ、それから洋菓子屋さんが2つ、あとは何でも作れてしまうという方もおりますので、何かぜひそういうところで協力できればいいです。

○滝田特別史跡推進担当課長 ぜひ開発していただいて。

○Lさん 今度、3月末にさくら祭りをやるので、そこにイノシシ鍋というのを出しますから。

○滝田特別史跡推進担当課長 そのおいしいにおいに魅かれて「かそりーぬ」が遊びに来たという感じで。

○青木若葉区長 あと、世の中のはやりは高校生から、と今言われていますけれども、Mさん、いかがですか。

○Mさん 先ほどから、高校生からの認知度が低いという話があったんですが、実際、今朝、加曽利貝塚がどこにあるのか知っているかを先生がクラスで聞いたところ、知らないと言った子、加曽利貝塚が何区にあるのかも知らないと言っている子がいました。学校とここは近いので、もっとPRを学校も一緒にやっていけたらなみたいなことを考えています。

○青木若葉区長 先ほど自治会のお話も出ましたけれども、近隣へのPRが本当に足りないんだなというのを、今日改めて認識させられました。

○Lさん 地域の学校の教科書に載せられたらいいですよ。

○青木若葉区長 あとお菓子屋さんに作ってもらいたいものは何かありますか、高校生の立場から。

○Mさん 高校生はよく近くのコンビニに行ってお飯を買ったりすることが多いので、そういう場所で何か栗を使ったものとかを売ったりすれば、興味を持って買う子が出てくると思います。

○青木若葉区長 加曽利貝塚を新デザインのテーマとした婚姻届受理証明書じゃないですけども、近隣の店舗で貝塚デザインの包装紙を使うような取り組みはできるのではないかなと思います。

○滝田特別史跡推進担当課長 今「かそりーぬ」というキャラクター自体は、だんだん人気が出てきましたので、「かそりーぬ」の絵を使わせてくれというオーダーは多いんですけど、縄文文化そのもの、栗とか、ドングリとか、イノシシとか、そういうのを使って名物にするよというのは、まだまだ少ないですよ。ですので、そういうものを、若い方の意見を聞きながら、どのように商品開発してもらうか、そしてそれを房の駅さんで売っていただけるとありがたいですね。

○青木若葉区長 何かこんなものがあつたらいいなというのはありますか。

○Aさん 確立したブランドイメージがあれば、商品開発はどんどんやれるとは思いますが、今観光に携わっていて、一番難しいと思うのが、10~20年前と違ってSNSがすごく充実しているので、本当にだめなものを出したときに、あっという間に情報が拡散されるんですね。例えば、グーグルマップなんかでも、評価「2」にされると誰も来なくなるという状態でして、今このブランドをガツンとPRして、全国からいろいろな人が来たときに、正直な話、恐らく評価としては3を切るような評価になると思うんです。じっくり取り組んで、しっかりと形になったときに、プロモーションをする。みんなの頭の中のブランドイメージがしっかりと統一されていて、そのときに商品が充実していれば、きっと爆発的に人気になると思うんですけど、足並みがそろわない状態でいろいろなことをやっていくと、本当に今一瞬にして拡散されちゃうので、じっくりいきたいなというのは思っています。

○滝田特別史跡推進担当課長 車椅子で見学もできないような遺跡なので、もっともっと整備しなきゃだめですよ。

○Lさん 例えば、縄文うどんなんて名前を付けて売ったら、縄文という言葉を手勝手に使うな、とよそから言われたりしないんですか。

○滝田特別史跡推進担当課長 ないと思います。

○青木若葉区長 ぜひ商店街と刑務所のほうでお話をさせていただいて、何か新しいものを地元の飲食店で使ってもらえるように開発していただければと思います。

○滝田特別史跡推進担当課長 食べ物は、B級グルメなど、ご当地グルメを中心に盛り上げていく例があると思うんですね。地元の方、地元の学生さんたちで実行委員会を組織して、実はここでは当たり前にあるけど、他ではこれはメジャーじゃないらしいよ、ここだけのご当地グルメなんだよというのが何か考えれば、それは一気に盛り上がると思うんですよ。

○青木若葉区長 オムライスでまちおこしをしているところがあるんですが、そこでは、1年目は行政の補助金を使ってPRしたそうですけれども、2年目以降は補助金なくなるので、1杯あたりいくらか価格に上乘せしておいて、次の年度のPR費用に充てたという話を聞きました。そのようなやり方もありますから、ぜひ実施のご検討をいただくと区としてはありがたいです。

そろそろお時間ですが、何か最後にこれだけはおっしゃっておきたいというのはございますか。

○Kさん もしかしたら、はとバスが寄るような観光性が強い施設になる可能性もあると。小倉団地もご多分に漏れずかなり高齢化が進んでおりますので、バスのルートなどは、いろいろご相談させていただければと。

○滝田特別史跡推進担当課長 失礼いたしました。説明が漏れておりましたが、新年度早々まず交通量調査を実施しまして、その後しっかりした交通計画を立ててまいりたいと思います。それで、進入路、アクセスを決めていきますので、その際にはぜひご意見を伺いたいと思います。

○Kさん ぜひよろしく願います。

○青木若葉区長 こんなものとかんなものを組み合わせるとこんなことができるんじゃないかとか、アイデアがありましたらぜひ地域振興課までご連絡ください。

○司会 皆様、長い時間大変お疲れさまでございました。

以上をもちまして、若葉区民対話会を閉会させていただきます。

本日はありがとうございました。

(了)